

## 1年 国語科研究授業のまとめ（7月13日）

### 1 単元名及び単元の目標

かいがら（3／6 本時）

- ◎ 人物の行動や会話を中心に、場面の様子を想像しながら読むことができる。



【資料1 板書の様子】

### 2 本研究授業の提案について

場面の様子や登場人物の気持ちに気付いたり想像を広げたりさせる手だてとして、以下の提案を行った。

- (1) 本時での様子や登場人物の気持ちをじっくりと考えて自分の考えをまとめることができるように、主発問を二つに絞るという手だてを行った。一つ目の発問の「どんなことを考えてそっとしまったのか。」では、くまの子が迷っていることを読み取ることはできたが、「そっとしまって」という言葉から心の中でどんな思いがあったのかまで深く考えさせることはできなかった。二つ目の「一生懸命考えたとはどういうことを考えたのか。」という発問では、児童は自分なりに登場人物の気持ちを読み取り、自分の言葉で文章にしてワークシートに表現することができていた。
- (2) 読み取ったり想像したりしたことを交流する展開を授業の中に位置付け、多様な見方ができることに気付かせるという手だてを行った。はじめに、ペア学習で互いの考えを発表し合い、その後、全体の前で発表する学習場面を設けた。ペア学習では、互いにワークシートを見せ合いながら自分の考えを発表することができた。その後の全体発表では意図的指名を取り入れ、「くまの子が縞模様の貝殻をうさぎの子にあげようかどう迷っている。」、「明日うさぎの子と相談する。」、「仲良しの友達だからあげる。」という観点で類型化して発表させた。それにより、児童は自分以外の考えに気付いたり更に想像を広げたりすることができた。そして、友達の発表を聞いた後でワークシートに書き足す児童も見られた。

以上のことから、主発問を絞って登場人物の気持ちをじっくりと考えさせたり、考えたことを互いに交流させたりする手だては、物語文を深く理解させる上で有効であった。

### 3 本研究授業の授業技術課題について

- (1) 学習への見通しを持たせるためにはどんな発問や指示が有効であるかを考えた。発問を絞ってじっくり考えさせたことは有効であったが、一つ一つの言葉に対する吟味が十分ではなかった。そのため、終末の段階でまとめの音読をさせる際、「読み取ったことが表れるように」という観点を示したが、「そっとしまって」という行動の背景にある心の中まで深く読み取っていなかったために、気持ちを込めた音読まではいかなかった。今後は、登場人物の気持ちを本文中のどの言葉に込めるか、本文をどのように読んだらよいかについて考えさせることにより、音読に反映させていきたい。
- (2) ねらいにせまるためにはしっかりと児童の実態を把握し、机間指導でどんな内容を書いているかを見取って意図的指名を行うことが重要であると考えた。児童の考えを三つの観点で類型化して発表させたことは有効であった。しかし、それを板書する際に羅列しただけだったが、視覚的に段階毎に分類して板書することでより一層考えの深まりを明確にすることができたのではないかと思う。

### 4 次回の研究授業へ向けて

以上の点をふまえて、次回の研究授業では以下の点を意識した授業展開を考えたい。

- ・児童の考えを視覚的に捉えさせる板書の工夫。
- ・交流場面での話合いとその後の再考のさせ方の工夫。